

# 国有林を利用した地元小学校との体験林業に取り組んで

中津川営林署 恵那森林事務所 基幹作業職員 柘 植 富 治

## 1 はじめに

「国有林野を利用した記念植樹及び体験林業」については積極的に取り組むこととなっており、中津川営林署では平成6年7月23日、24日の二日間にわたり、全国行事「森と湖に親しむつどい」のイベントとして「水源の森ツアー」の実施に協力したほか、この全国行事のPRをも目的とした植樹祭をイベント会場である阿木川ダム湖畔において丁度100日前に当たる4月15日にメモリアル植樹祭として開催するなど、地域の催しにも積極的に協力しています。

このような取り組みをするなかで、中津川市立南小学校川上分校が、ふるさとの自然に学ぶ「ふるさと学習」として、森林、林業について体験学習を実施したいと考えていることを分校の先生から聞き、営林署で計画している郵政省の「地球環境保全の森」事業が川上分校の上流であることから、これをタイアップして実行できないものかと考え、森林官と相談したところ、さっそく営林署と分校とで打合せがされ、実施することが決まりました。

## 2 取り組みの内容

分校が取り組んでいる「ふるさと学習」というのは、過疎化していく川上にあって、豊かな自然を生かした体験活動を通して子供たちにふるさと川上の良さを感じさせる教育活動で、昨年は「炭」をテーマに活動し、今年は「森林」「林業」をテーマに活動しようというものです。

分校の意向としては「単に記念の植樹というより作業を体験する、それも下刈など作業についても継続して体験していきたい」というもので、営林署としても更に実りあるものとするために、当日は全現場職員が現地の植付作業に従事し、「ふるさと学習」の時間は子供たちとマンツーマンで植付するなかで、山のこと、学校のことなどを話しながら作業することにしました。これは日頃変化の少ない職場にあって、職員の気分転換にもつながればと考えて計画されたものです。

当日は19名の生徒の外、校長先生、郵政省などからも参加されるなか、午前中は植付作業、また、午後からは森林教室を開催しました。子供たちからは後日感想文が届けられ、その中には、山の仕事が大変なこと、木には今まで知らなかったたくさんのお働きがあることなどが書かれており、作業を通して多くのことを学んだようでした。

植付作業に続いて夏休み明けには下刈作業を体験しました。今度は森林官などから注意事項や

鎌の使い方などの説明を聞き、自分たちの力で取り組んでみました。

子供たちは慣れない鎌に手こずりながらも真剣に取り組み、作業が終わった後、苗木が顔をだした山を見て満足した様子でした。

先生からは「来年以降も是非継続していきたい」という意向も伝えられ、国有林をフィールドとした体験林業として大きな成果があったものと考えております。

### 3 おわりに

この取り組みを振り返ってみると、地域のちょっとした情報を聞き流さず、また、営林署の動きにも森林官と意志疎通を図ってきたことが、結果として地域に役立つと共に、学習の場として国有林が有効に活用されたものと考え、その意味で私たち現場職員は長年その地で働いており、地域とのつながりも深く、情報も得やすい立場にあります。

その意味で若い森林官が多くなった今、地域と森林事務所、そして営林署とのパイプ役としての役割が大きいのではないかと考えています。